

# 積丹森便

平成18年1月号 No.11

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki\_taniguchi@rinya.maff.go.jp

>>> 積丹町のみなさんに国有林の情報を毎月お届けします。1400部発行、全戸配布です。

明けましておめでとうございます

年が変わり、新たな一年が始まりました。初夢、初日の出、初詣、何事にも「初」を付け、楽しみながら一年のスタートを切るのは万国共通なのでしょうか。今年の初森便りです、どうぞよろしく願います。



## 森林インストラクター

森林インストラクターは、自然環境教育を目指す森の案内人です。自然と森林のしくみ、森林づくりと林業、野外での活動、教育の方法、安全対策のすべてについて一定レベルの知識を持っています。森を訪れる皆さんが、心地よく過ごし、楽しみ、感じ、自然を深く知ることができるよう、さまざまな活動を通してお手伝いをしています。

私、積丹森林官もこの月から森林インストラクターとして、森林や林業、自然の様々な表情や不思議について、国有林を通じて紹介していきます。経験も浅く、まだまだ勉強不足ですが、緑豊かな積丹町のみなさんと一緒に学び、教わりながら、自然の素晴らしさに触れられたらと思っています。



## 冬の種蒔き

先日、雪投げをしていると、積もった雪の上に茶色の粒が落ちていました。「おやつ」と見てみると、どうやら何かの種のようにです。あたりを見渡すと少し離れたところにエゾマツが生えていました。数日前の強風で種が飛んだのでしょうか、他にも豆状のニセアカシアの種や矢じりの様なイタドリ種の種も飛ばされて落ちています。普段は雪の無い地面に落ちて気が付かないものですが、冬ならではの発見です。これも何かの機会だと思い、これらの種をプランターに植えて育ててみることにしました。みなさんの家の屋根にも不思議な種が落ちていませんか？花壇の隅に、小さな鉢植えに、そっと種を忍ばせ春の芽生えを待ってみると、普段見慣れた草木について何か新しい発見があるかもしれません。

← エゾマツの種



イタドリの種 →

## 国有林モニター募集中

林野庁北海道森林管理局では、みなさんに国有林の役割や現状を理解していただくとともに、国有林野の管理・経営にみなさんの声を役立てていくことを目的として、平成十八年度の「国有林モニター」（北海道全体で五〇名程度）を募集しています。

「国有林モニター」になっていただいた方には、国有林の広報誌やイベント情報などを定期的に送付し、アンケートにご協力いただくほか、国有林の管理経営についてご意見、ご提言などをお寄せいただけます。

応募条件等詳しくは北海道森林管理局ホームページ

<http://www.hokkaido.kokuyuin.go.jp/>

をご覧ください。北海道森林管理局国有林モニター担当までお問い合わせください。

電話 0116225229

FAX 0116403108

e-mail tomoya\_mina@rinya.maff.go.jp

国有林モニター担当（窪井、三間）

# 積丹森便

平成18年2月号 No.12

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki\_taniguchi@rinya.maff.go.jp

>>> 積丹町のみなさんに国有林の情報を毎月お届けします。1400部発行、全戸配布です。

## 木々のおしゃれも色々

「雪化粧」というと、みなさんはどんな光景を思い浮かべますか？ うっすらと積もった雪で山や木々の一部がおしろいを塗ったように美しくなることを言いますが、山で一風変わった雪化粧を見かけました。木々に沿って縦にスツと筆を入れたように雪が付いています。考えればごく自然な光景ですが、とても不思議な世界に迷い込んだような気持ちになりました。綿菓子のように枝葉に積もる雪もあれば、花が咲いたように雪がつくこともあります。時には怪獣のような樹氷になったりと、冬の木々の姿も色々。新緑の衣替えまで、どんなおしゃれを見せられるか楽しみにしますね。



## 森林調査の結果は？

様々な要素から構成される森林。その森林を扱う仕事はみなさんにとってなかなかイメージがつかめないのではないのでしょうか？ 森林官の仕事の中心は、森林を見ることです。しかし森林を見ているだけではありません。見てきた森林を伝えることが大切なのです。



森林を伝える、と言ってもどのように表現するのでしょうか。「あそこは木もたくさん生えていていい林だ」と説明しても、たくさんとはどの位なのか、何にとつていい林なのか、自分が見てきた森林の姿通りに理解してもらうのはとても難しいものです。

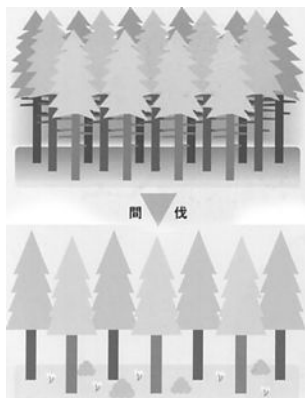
森林の管理や整備には多くの人が関わります。森林官が見てきた森林を正確に伝えることで、管理や整備もしっかりと行なわれることになります。そこで、個人個人の感覚の違いが影響しないように、定義された専門用語や一本一本の木を測った数値を活用し、写真やスケッチなどと併せて、実際にその森林を見ていない人にも状況が目に見えよう伝えることが森林官の重要な仕事なのです。

広大な森林のどの部分を伝えるのかということも重要な問題です。そこで、これまで調査された様々なデータをもとに森林の機能が果たせなくなる恐れのある箇所を選び森林調査を行なうことになります。

昨年のある人工林の森林調査では、林内に入った途端にササや草が消え、薄暗く地面がむき出しになっていました。これは植えられたトドマツが生長した結果、繁った葉が光を遮って草や低木が生長できない状態になっているのです。このまま放置しておくと、地表の土壌は雨水に流され、森林も荒廃していきます。そこで、この混み合った木々を抜き伐りし、地表に光を届けることが必要になります。これが「間伐」です。

「間伐」が行なわれた森林は、風通しも良くなり、木々にも十分な光が当たり森林が生き生きしてきます。草や低木にしっかりと支えられた豊かな土壌は雨や雪解け水をゆっくり受け止め、豊かな海の源となります。

現在、森林の調査はこのように組み合わせ「間伐」が必要な森林を中心に行なわれているのです。



# 積丹森便

平成18年3月号 No.13

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

Email hiroaki\_taniguchi@rinya.maff.go.jp

>>> 積丹町のみなさんに国有林の情報を毎月お届けします。1400部発行、全戸配布です。

## 広葉樹の植林

葉を落とし静かに冬を過ごす落葉広葉樹。よく見てみると微かに新芽を膨らませ春の準備をしています。

国有林では広葉樹は植えないの？という疑問を良く耳にします。「広葉樹は難しいから…」などと答えています。少し詳しく現状をお伝えしたいと思います。

積丹町の国有林では人工林の中の1%にミズナラやヤチダモといった広葉樹が植えられています。北海道全体では人工林の5%程度が広葉樹です。つまり人工林のほとんどが針葉樹となっています。広葉樹が植えられないのは何故でしょうか。木材として使にくいから？ 植林費用が高いから？ 管理しにくいから？

いえいえ、理由は別にあります。



## 適地適木の難しさ

「広葉樹は生まれ育つところを自分で定める木」

昭和四〇年代、広葉樹についての評価が高まり、研究、技術開発が本格的に始まりました。四〇年近くたった現在、その成果は芳しくありません。その原因は様々で、未だ解明されていないことも多いと言われていますが、その一つとして広葉樹が生育環境にとっても敏感であることがあげられます。例えば庭や平坦地では比較的うまくいく広葉樹の植樹が、傾斜のある山でうまくいかなかったりします。傾斜によって生まれる諸要因は雪害や日照条件、水の流れ、



植樹の基本は、その土地その場所に合った木を植える「適地適木」ですが、生育環境に敏感な広葉樹の場合その適地が限定され、針葉樹の場合は幅の広いものになっています。自然界では、多種多様なタネが様々な場所に散布され、色々な条件の中で淘汰されるという過程を経て樹木が生長していくので結果として広葉樹の「適地適木」が適うことになるわけですが、それを人の手で行なうのはとても難しいことなのです。

広葉樹の育成には、ほかにも下刈り時に誤って伐ってしまったり、鹿やウサギによる食害など様々な問題を抱えているのが現状です。

それでは国有林は広葉樹をあきらめているのかというと、そうではありません。遠くから見ていると気付きませんが針葉樹の人工林内を歩いてみると、広葉樹が意外に多く生えているということがわかります。しっかりと間伐された健康な人工林であればなおさらです。これは人工林の木々が、風や日差しを遮り、土壌の乾燥を防ぐなど広葉樹にとって好条件をつくりだしているからです。そこで、針葉樹の一斉林の一部を伐採し、自然に生えてくる木々を育成するといった方法や、一番の障害要因であるササを処理することで広葉樹が生えてくる条件を整えるといった方法などで広葉樹の育成に取り組んでいます。

今後、このようにして育った広葉樹を目にした時、ふれあう機会も増えてくるでしょう。自然のペースで少しずつ変わっていく森林を見守っていききたいですね。





# 積丹森便り

平成18年4月号 No.14

石狩森林管理署 積丹森林事務所

Tel 0135-44-2105 Fax 0135-44-2150

>>> 積丹町のみなさんに国有林の情報を毎月お届けします。1400部発行、全戸配布です。

## 木の心

山に入り、ふと目を留めた先に一本の木が立っていました。まだ細いけれど、周囲の木より大きくなってお日様を一杯浴びようとぐんぐんと背を伸ばしています。

自然の中では厳しい競争に耐える木しか残ることはできません。ですからどの木も力強い姿をしています。

この木は、これまでどんな競争を勝ち抜き、そしてこれから自然の厳しさの中でどれだけ生きることが出来るのだろうか。そんなことを考えました。

千年たった木は、千年以上の競争に耐えてきた木です。気の遠くなるような昔から、同じように繰り返されてきた自然の大きな流れの中で、小さな頃は大きな木に囲まれながら風雪の時を過ごし、競争相手の隣木も支えにしながら、ゆっくり時間を重ねてきた姿を想像します。千年の木は千年経てば育つわけではなく、もつともつと長い時間と多くの命の繋がりの中で奇跡のように存在している、そう感じずにはいられません。

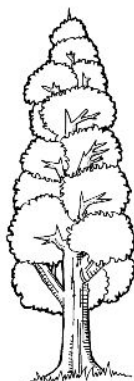


木には心があるのか、そんな疑問を問いかけられたことがあります。

木は歩くこともなければ、言葉を使うこともありません。けれども、人と同じく生と死があり、好き嫌いがあり、生きてきた積み重ねがその姿になります。

お日様を感じたならそのお日様を、冬の厳しさや、春の喜びを、人の心が詩を詠み、踊るように、木の心で感じたそのままの姿でそこに立っているように感じます。

人と人とが会話できるのは、生活の中で積み重ねた経験を共有、共感できるから。人と木も自然の中、共有できる時間を過ごしています。無数のタネから、育ち成長してきた一本の木に出会うとき、みなさんはどんな会話をしますか？ もしかすると人との会話では感じることでできない何かがあるかもしれません。森林は、そんな一本一本の木々の集まりだと思えば、その価値の大きさに改めて気付かされます。



積丹森便りは、今月号でいったん終了です。短い間でしたが、毎月読んでくださった町のみなさま、発行に際しご指導、ご協力いただいた方々、ありがとうございました。

## 交代しました！

（新旧森林官へ挨拶）

### ◇よろしくをお願いします

新山 朗生（にいやま あきお）

4月から谷口森林官に代わりまして積丹の森林官になります新山です。森林官は初めてなので、みなさまのお役にたてるかわからないですが、自分なりに頑張つてやっていこうと思っていますので、これからよろしくお願いします。あと積丹の海に行くのを楽しみにしています。

### ◇お世話になりました

谷口 大明（たにぐち ひろあき）

在任期間 平成一六年四月一日～

平成一八年三月三十一日

国有林を通して、みなさまと過ごした積丹での二年間は、いつも新鮮な驚きでいっぱいでした。素晴らしい景観と豊かな自然環境の中、温かい気持ちと笑いの絶えない積丹が大好きになりました。また、ここでみなさまとお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

